

2月1日

テーマ：「キリスト者の死」

聖書箇所：テサロニケ人への手紙第一 4章9節～18節

◆今日のみことば

眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです。

テサロニケ人への手紙第一 4章13節

◆メッセージ

昨年、世界の人口は約73億人でした。世界中で1年に1億3千万人が生まれましたが、6千万人が亡くなりました。日本の人口は1億2756万人でした。毎日2935人が生まれましたが、それより多く、3279人が亡くなくなっています。これは人は生まれる時があれば、その後、死によってこの世を去る時も必ず来る事をよく表しています。

聖書に「そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている（ヘブル9：27）」と書かれています。すでに愛する人を先に送り出した人もいるでしょう。限られている一度の人生の中で、キリストを信じていない人は死で全てが終わってしまうと思いこみ、死に対する恐れや不安を持ちます。それで、死は自分と関係ない、他の人の話のように避けたり、考えるのを嫌がったりします。みなさんはいかがですか。



今日の本文は、使徒パウロがテサロニケにいるクリスチャンたちに、キリストの復活の約束によって慰めを語った箇所です。テサロニケのクリスチャンたちの中には、殉教した人たちが何人もいました。「イエスさまなんか知らない、関係ないと言えば殺さない。」と脅されても、イエスさまを信じ続けて殺された兄弟姉妹のことを思うと、悲しい思いでいっぱいでした。聖書は、キリスト者の死に対して「眠った、眠っている(13・14節・マタイ9:24)」とよく書かれています。イエス・キリスト

が再び来られる時、すべてのキリスト者はイエス・キリストのようによみがえり、栄光の主と共に神の国で永遠に生きる事になるからです。私たちにもこの大きな望みと希望によって慰め合い、励まし合うように勧められています。今日も分かれと涙があるこの世で、イエス・キリストにある変らないこの生ける望みを抱き、今も生きておられ共におられる主と共に歩む私たちの家族となりましょう。



◆お祈り

「愛する父なる神さま！今日も涙もあり、分かれもあるこの世の中で、イエスさまを信じる私たちに与えてくださる、この生ける望みをちゃんと握って、復活の主と共に歩む一日となるように導いてください。」

(クリスチャンプレイズチャーチ牧師 鄭南哲)